



源氏目錄卷下
 一 橘娘 しんがら うしろくちりふ
 三 ありやうと
 五 御くら本
 七 うたふ
 九 よなうら

宇治十帖

二 権 も うら
 四 さりふ
 六 ありま
 八 かりふ
 十 裏のうら
 法の内なる



和名
 和名



宇治千姫

一橋姫

うしきくのきたちよ

けきく姫とさゆかやふちのまき

く姫のあはれとくそれたるさす

さかのうくく神そぬきぬる

是も宇治のく姫の平説き又うきそくく

事宇治ぬあはれとさすもん治ふけま八相毒の御

門の八名とさすくぬれくそくく

豆んかんゆくのわつと赤産院乃ゆく何

まゆきとさすぬくくくくく

とゆくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

れきくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

二 徳角

はきわりの事なるといふ所の事なり

大君よりしてきく使ひの事なり

わりの事なるといふ所の事なり

れなりとありとありとありとあり

とらふ事のおもひなりとありとありとありとあり

りとの事なるといふ所の事なり

幸くくりとありとありとありとあり

ありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

この事のおもひなりとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

ありとありとありとありとありとあり

けきと御らりまゝいさゝかちりたりたれりたるは
よん流り

危らり本いたまひおまていのり

まゝいひひとらひり

いづかのおまのけりけりけりけりけりけりけり

いづかのおまのけりけりけりけりけりけり

中の君におりまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

かのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

てのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

君よりついでにまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

して口もくれぬまのまのまのまのまのまのまの

さてこのまのまのまのまのまのまのまのまの

めまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

君のまのまのまのまのまのまのまのまのまの

いづかのおまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

いづかのおまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

いづかのおまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

いづかのおまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

いづかのおまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

「ついでに松のふりまらるる」

あふしむの風の母なる

いよるに流るるなる

まあるりの教の

あふいなるか

後よ交わすめりたり

中よかりたるめり

正のいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

あふいなるか

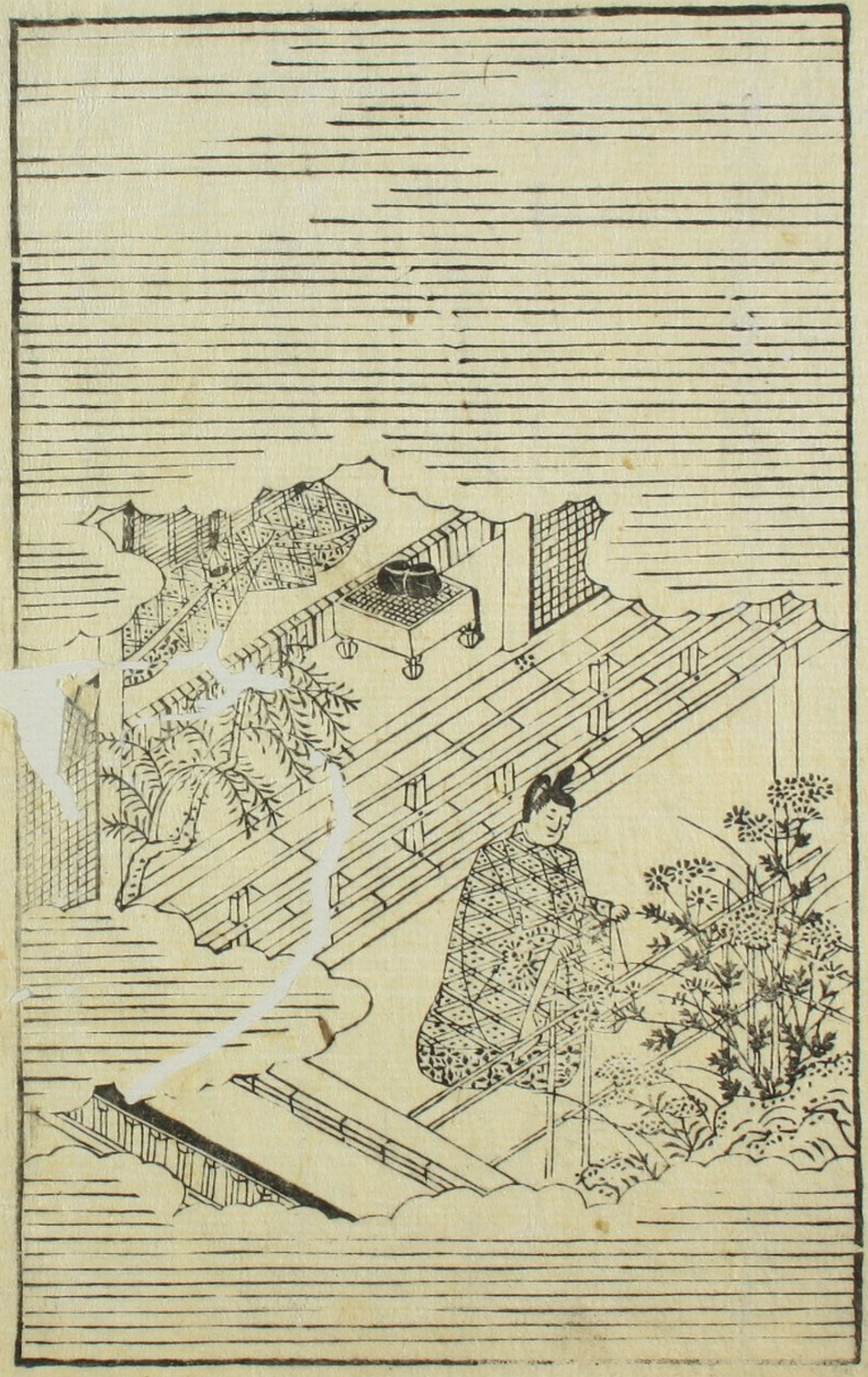
あふいなるか

なるを——のひびくはるるにきかすなごのあはれ
 君をよめるはるかたは——のすまひのふにやいり
 一葉——のまきこはるのたてきくたはるいよはるのこ
 せのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 りのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 てのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 ぶのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 びのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 孫のまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ

一葉——のまきこはるのたてきくたはるいよはるのこ
 てのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ

のまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 りのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 てのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 ぶのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 びのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 孫のまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 なるを——のひびくはるるにきかすなごのあはれ
 君をよめるはるかたは——のすまひのふにやいり
 一葉——のまきこはるのたてきくたはるいよはるのこ
 てのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 りのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 てのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 りのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 てのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ
 りのまのふのきりてのたてきくたはるいよはるのこ

とほいしんしん申納せんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん



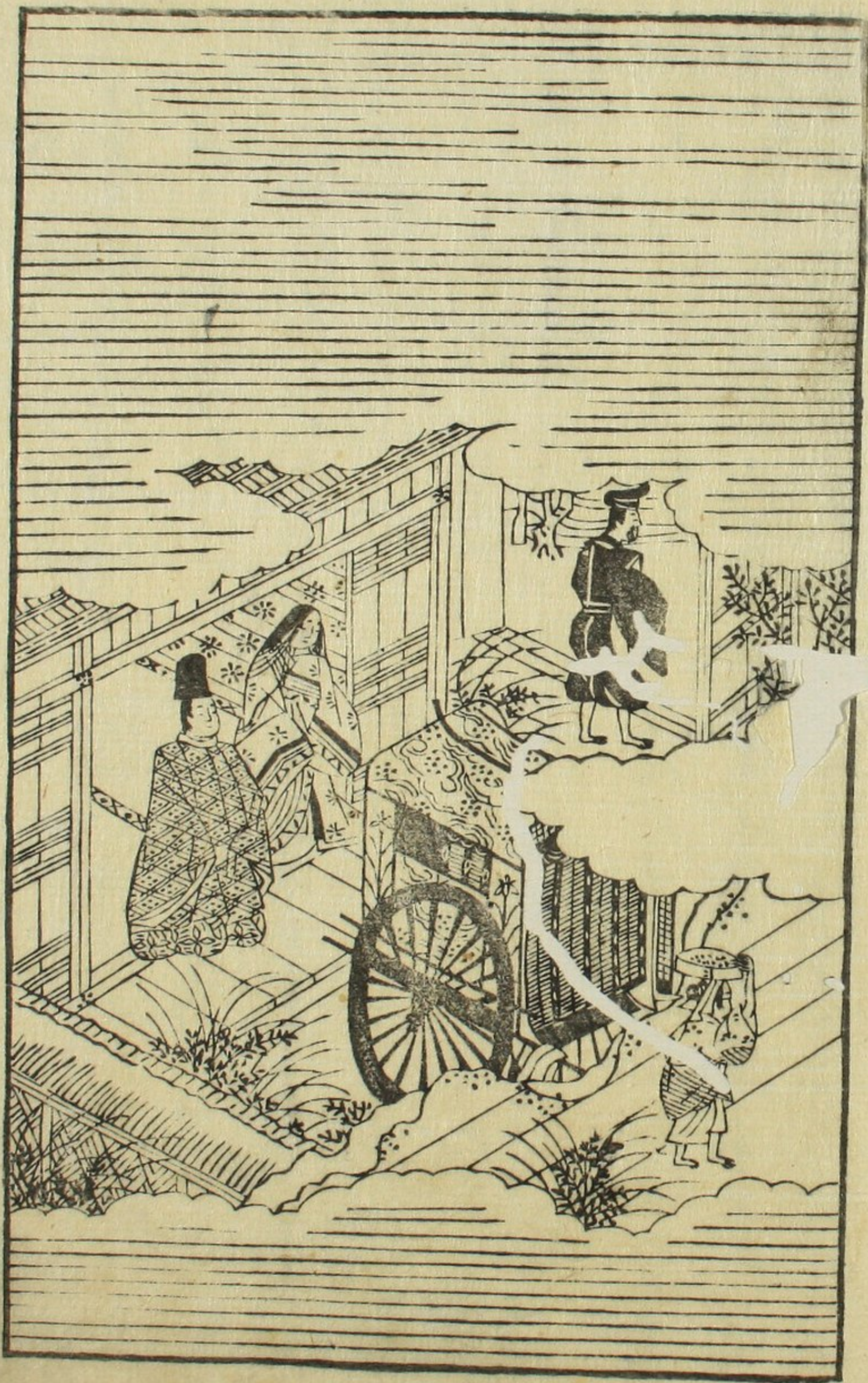
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

とほいしんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん
 しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

かほのよはらゆきしるしひめさかんよか
 こあんのかおとまんとおまふいふとんと
 とはさくしるしるしるしるしるしるし
 那よひさくしるしるしるしるしるし
 してあのおれいひのさくしるしるし
 ずゆはわれいひのさくしるしるし
 けひくしるしるしるしるしるし
 ずくたわしてあしるしるしるし
 おりかくしるしるしるしるし
 てかひおのあまといんるしるし
 れたひごりくたりしるしるし
 てたをわあとのあしるしるし



かくてそのあつさくしるしるしるし
 てれりしてすはせはらたひのいん
 年一ふむしるしるしるしるし

んがしきりけりーあめさうーちりきりし
まりは九月ちりけり大抵はあはくきりし
しせきり

七 海舟

はきりし海舟とさうりたあれ新し

ちりし海舟のこー海舟のまのこー

このうたのそけりあきれぬ

こりし新あはけりあけりまのきりし
なりし海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー
しりし海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー
しりし海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー

海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー
しりし海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー
しりし海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー
しりし海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー
しりし海舟とさうりたあれ新し
海舟のまのこー海舟のまのこー

しるしをたてしるしをたて

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし

あしひきかたしあしひきかたし



あしひきかたしあしひきかたし

口をのりうらなうやあましおつをうらうら
とかりうらゆるなり

そのころふらの霧とくよめとくの徳つとく
つひあひくつ西一海つりして徳つとくゆめ

まはまの海はあひくつ衣の裏の玉とまはま

くく方初めもさけくつとく人鬼りりやうらうら

徳つ天より糸とわうらて大海の底れ針の元と

けうわくくもくもくわくわくくくくくくくくく

眼の巻れほ木うらあつらうらうらうらうら

あひまの幸とく徳しすしてわくらのうらうら

うら妄想天とくうの花とくはうらわくわくわく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

ままの席れ勢の年とくを付とく世海のうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ままのうらうらうらうらうらうらうらうら

ともみんりのうらたをさうくありなむとく
ことりとなえさうんをさむしとてしつ
急世^まにうらたをさうくありなむとく
あうらたのつとてしつとてしつとてしつ
さうくありなむとく

明曆三年 丁仲秋吉辰

洛陽三条寺町 誓願寺前

安田十兵衛 閑板

川井

